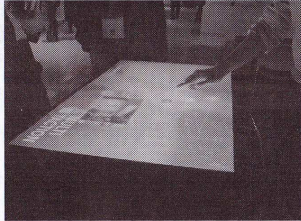


「デジタルコンテンツEXPO2014」(主催「経済産業省、デジタルコンテンツ協会」)が10月23〜26日の4日間、東京都江東区の日本科学未来館で開かれ、コンテンツ技術をテーマにした展示が実施された。

●エヌジーシー

エヌジーシーは、昨年8月から取り扱いを開始した、フィンランドのMultiTouch(マルチタッチ)社製大型マルチタッチディスプレイ「Multi-Interactive」のソリューションを展示した。従来のタッチディスプレイは手で認識するのに対し、同製品は手の形や向きまで認識。そのため、利用者の向きに合わせてコンテンツを表示できるという。

通常は認識タッチ数が10点程度だが、同製品は無制限で、32台の高速度認識が可能。利用者はスマートフォンのような操作感で、コンテンツを楽しむことができる。同社ビジネスソリューション事業部長、エヌジーシーが扱うMultiTouch社製の大型マルチタッチディスプレイの長谷川拓氏は、



エヌジーシーが扱うMultiTouch社製の大型マルチタッチディスプレイ

デジタルコンテンツEXPO2014

最先端の映像技術を披露

「ハイエンドなタッチパネルを使いたいユーザーに訴求している。デジタルサイネージや会議、プレゼンなどの用途で提案している」と話す。

アプリケーション開発のプラットフォームを有し、ユーザーオリジナルのアプリケーションにカスタマイズも可能という。なお、同社では今年から中国・クリエイティブD社の大型LEDシステム

の取り扱いは開始した。「タチナカなど協力しながら、LEDディスプレイの拡販を図っていく

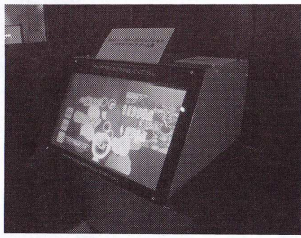
新タイプのディスプレイ

4K撮影制作システムも

たい「長谷川氏」としている。

●パイオニア

パイオニアが独自に開発したシースループロジェクション



パイオニアが独自に開発したシースループロジェクション

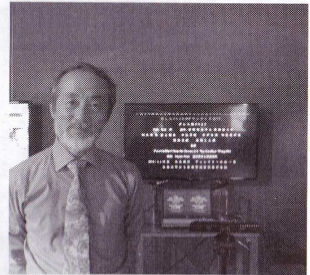
現する。

同技術は、透明なスクリーン上に浮かせるような映像を映し出すこと

で、透明性と表示視認性を両立できるといった特徴を持ち、スクリーンの背後にある物体をにじみやゆがみなしで表示する。



パナソニック4K撮影ソリューション



文教大学の高田教授と立体視作品

「ハイエンドなタッチパネルを使いたいユーザーに訴求している。デジタルサイネージや会議、プレゼンなどの用途で提案している」と話す。

また、スクリーンの背後に液晶ディスプレイを置いた場合にも、映像信号が相互に干渉しないこと

から、物体、液晶上の映るソリューションを披露した。製品としては、過酷な撮影現場に耐える堅ろう設計の「VARI CAM35」や、世界初の内蔵SDメモリーカードへの4K動画撮影に対応したデジタルミラーレス一眼カメラ「LUMIX XGH1」などをそろ

えた。また4K映像の忠実な色再現を実現し、制作現場をサポートする業務用製品も発売している。この4K液晶モニターなど、ディスプレイ製品も展示した。

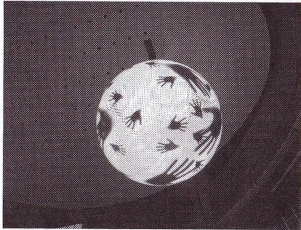
また4K映像の忠実な色再現を実現し、制作現場をサポートする業務用製品も発売している。この4K液晶モニターなど、ディスプレイ製品も展示した。

●文教大学大学院情報科学研究科

文教大学大学院情報科学研究科は今年創設10周年を迎えた。これを記念するイベントの一環として、デジタルコンテンツ系教育と研究の現状および作品を紹介した。

文教大学情報メディア表現学科教授の高田哲雄氏は、「CGによる3D(立体視)映像、バーチャルスタジオでの実験キネクトによるインタラクティブなコンテンツなどを展示した。文教大学ではオートデスク、アドビ、Unity、DTMなどのクリエイティブ系

の映像をそれぞれ高品位で見ることができ、さらに相対角依存性もないため、液晶などの既存のフラットパネルディスプレイにはない新たな空間映像表示を実現する。パイオニアの説明員は「当社は車載用途などを想定して新 たなディスプレイを開発して研究している。この4K液晶モニターなど、ディスプレイ製品も展示した。だが、研究は継続していく」と話していた。Cosmos(「球体ディスプレイ」のコンメン



Geo-Cosmos Content Contestの大賞作品

●パナソニック

の新たな可能性や表現方法を追求する目的で、開発多数の応募作品の中から、2つの大賞を含む5作品が入賞した。同展示スペースでは、今回の入賞作品をコンパクトな半球ディスプレイに映し出して紹介した。

●文教大学大学院情報科学研究科

文教大学大学院情報科学研究科は今年創設10周年を迎えた。これを記念するイベントの一環として、デジタルコンテンツ系教育と研究の現状および作品を紹介した。

文教大学大学院情報科学研究科は今年創設10周年を迎えた。これを記念するイベントの一環として、デジタルコンテンツ系教育と研究の現状および作品を紹介した。

文教大学大学院情報科学研究科